

私たちは地域の「よろず相談所」でありたいと願っています。

平素は、当金庫に対しまして何かとお心寄せを賜り、厚くお礼申し上げます。

このたび、ご安心してお取引をいただくために、2019年度決算や経営内容の一端について「ミニディスクロージャー2020[令和2年3月期]」としてまとめさせていただきました。

お目通しいただき、《たんよう》のより一層のご理解と引き続きのご支援、ご愛顧をよろしくお願い申し上げます。

2019年度の業績について

2019年度は、地域に根差した金融機関として「よろず相談信用金庫」の実践に取り組むことで、企業や個人の皆様の課題解決に向けた改善提案やお客様の立場に立ったサービスの拡充に努めた結果、低金利環境の長期化に「コロナウイルス感染」が重なる厳しい環境下ではありましたが、預貸金ともまず順調に増加し業容の拡大が図れるとともに、前年度を若干下回りましたが、ほぼ目標通りの利益を確保することができました。

但陽信用金庫と地域の絆

当金庫は、大正15年に但馬(朝来市生野町)にて創業。山陽地域にご縁を拡げ、昭和63年5月、東播磨の加古川市に本店を移転。中・西播磨を含めた兵庫県中南部を主な事業区域とし、地域の中小企業者や住民による会員組織の金融機関として、相互扶助による「地域の発展」「豊かな暮らしの実現」を共通の理念としています。

地域のお客様からお預かりした大切な預金は、地域で資金を必要とされるお客様にご利用いただき、事業や生活の繁栄のお手伝いをするとともに、地域社会の一員として地域の中小企業者や住民の皆様との強い絆とネットワークを形成し、地域経済の持続的発展に努めています。

また、金融サービス機能の提供にとどまらず、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標でもある「地域創生」への参画や文化・環境・福祉・教育・観光といった面も視野に、広く地域社会の活性化に積極的に取り組んでいます。



■ スマホ用ホームページでより詳しい情報がご覧いただけます

「《たんよう》の地域貢献(密着)活動」や「法人・個人事業主の皆様のためのセミナー・勉強会情報」ほか、当金庫の取組みがスマホに対応したホームページでご覧いただけます。是非チェックしてみてください。

QRコードでチェック!!→

《たんよう》の
地域貢献(密着)
活動



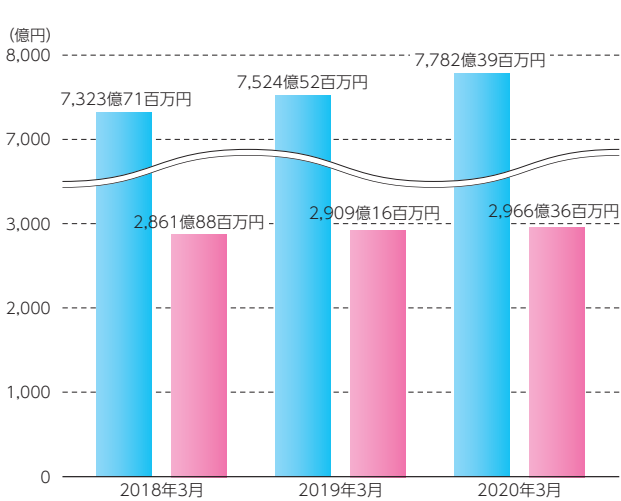
QRコードでチェック!!→

事業者の
お客様向けセミナー・
勉強会情報



■ 預金・貸出金について

■ 預金・貸出金残高の推移(毎期末現在)



■ 預金については、引き続き、間口拡大とメイン化を基本方針に、「エリア内全世帯メイン化」を最重点施策に掲げ、お客様の視点に立ったサービスの拡充や利便性の向上、お客様のライフスタイルに沿った提案の推進に努めました。

その結果、期末残高は、7,782億円(前期比257億円、3.42%増)となり、科目別では、普通預金が265億円、人格別では、個人預金が197億円それぞれ増加しました。

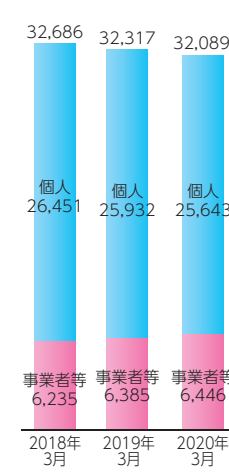
■ 損益について

■ 日銀の金融緩和政策により低金利環境が長期化し、貸出金利息や預け金利息の減少を余儀なくされる中、国内債券中心の運用から海外債券や株式のリスクをとった資金運用に努め、前期を上回る有価証券利息配当金を確保したことから、資金利益は80億95百万円(前期比1億45百万円、1.83%増)となりました。さらに債券売買益を3億95百万円(同63百万円、18.93%増)確保したことで、**業務純益**は、16億34百万円(同2億99百万円、22.45%増)、**実質業務純益**は、16億57百万円(同2億92百万円、21.40%増)となりました。また、**コア業務純益**も、12億61百万円(同2億29百万円、22.20%増)、**コア業務純益(投資信託解約損益を除く)**も、11億13百万円(同81百万円、7.87%増)となりました。

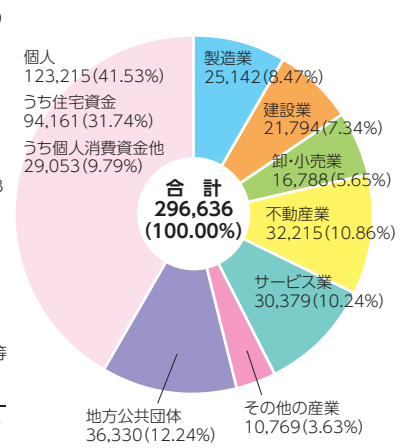
■ **経常利益**は、貸倒引当金の積み増しやコロナウイルス感染拡大に伴う株式市場の大幅な下落から株式の損失処理を余儀なくされたものの、前期を上回る14億19百万円(同99百万円、7.52%増)を確保することができました。

■ **当期純利益**は、固定資産の減損処理に伴い特別損失を計上したことなどから、7億98百万円(同△1億21百万円、△13.20%減)となりました。

■ 貸出先数(単位:先)



■ 貸出金の業種別内訳(2020年3月末現在 単位:百万円)

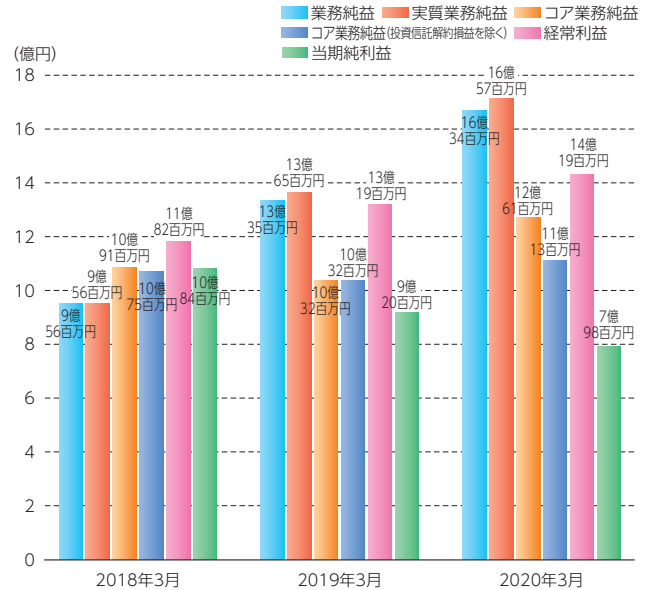


(注)・個人事業主の方の個人消費資金は、個人向資金として計上しています。

■ 貸出金については、お客様一人ひとりのライフサイクルに応じた個人向け融資に継続して取り組むとともに、事業者の皆様には、「課題解決型融資」や「本業支援」を通じ、お客様との「共通価値の創造」の実現に取り組みました。

その結果、期末残高は、2,966億円(前期比57億円、1.96%増)となり、事業性融資が44億円、個人向け融資が9億円、地元地公体向け融資が3億円それぞれ増加しました。

■ 損益状況の推移(毎期末現在)



ワンポイントメモ

- ・ **業務純益**: 業務純益=業務収益-(業務費用-金銭の信託運用見合費用)。貸倒引当金繰入額が全体として繰入超過の場合、一般貸倒引当金繰入額(または取崩額)を含みます。
- ・ **実質業務純益**: 実質業務純益=業務純益+一般貸倒引当金繰入額。実質業務純益は、業務純益から、一般貸倒引当金繰入額の影響を除いたものです。
- ・ **コア業務純益**: コア業務純益=実質業務純益-国債等債券損益。国債等債券損益は、国債等債券売却益、国債等債券償還益、国債等債券売却損、国債等債券償還損、国債等債券償却を通算した損益です。
- ・ **コア業務純益**: コア業務純益から投資信託解約損益(有価証券利息配当金に含まれるもの)を差し引いたものです。(投資信託解約損益を除く)
- ・ **経常利益**: 経常利益=(業務収益+臨時収益)-(業務費用+臨時費用)
- ・ **当期純利益**: 経常利益に特別利益・特別損失を加減し、法人税等を控除した最終利益